Market Letter 情報提供資料

米AI・半導体関連株の反転の材料は？

AI半導体株の割安感が強まる中、目先は注目企業の決算を確認

2026年11月2日

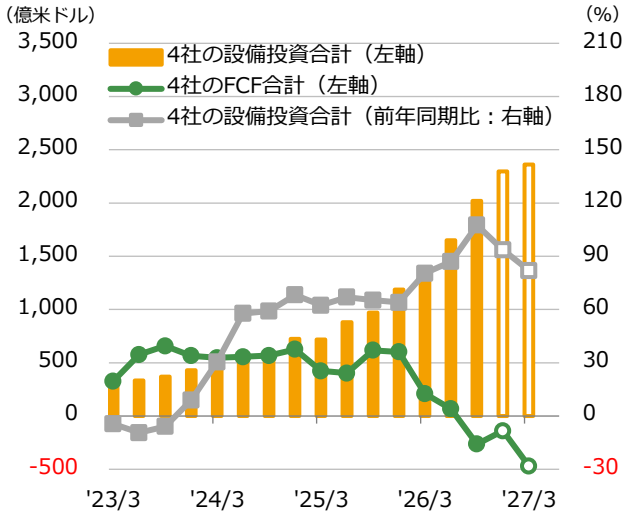
クラウド事業増収率拡大より巨額投資負担への懸念を市場は重視

10月30日（金）の米国株式市場ではナスダックが▲2.9%、SOXに至っては▲7.2%と急落し、AI・半導体関連株を中心に売りが広がりました。下落の主因は前々日のアルファベットや前日のアマゾン、ビッグテック2社の7-9月期決算です（PC用半導体が不振のインテル決算見通しも響きましたが個別要因の感あり）。共にクラウド事業の増収率は想定以上に拡大しましたが、全体売上やEPSは事前予想に未達。巨額設備投資等を背景にFCF（フリーキャッシュフロー）が悪化した他、今後も高水準の投資が続くとの見方が強まりました。AI需要が拡大するにしても、それが十分な収益に結び付くのかが疑問視されました。

今後も調整が続くのかを見極めるうえで、複数の材料を確認する必要があります。半導体関連株については、SOXの予想EPSが拡大する一方、株価下落によって予想PERは近年のレンジ下限まで低下しており、株価の底入れに差し掛かった感があります。目先では、11月3日（火）のAMD決算等でAI半導体需要や業績見通しの強さが維持されるかが焦点です。これに先立つ2日（月）のアップル決算が、ハイテク株全体への不安を和らげる内容となるかも注目されます。一方、ビッグテックの本格的な再評価に向けて重要なのは、次回以降の決算でクラウド事業の高成長を維持しながら、設備投資の増加率が（減少ではなく）鈍化する、ないしはFCFの改善が確認されることです。AI需要の強さに加え、投資回収の進展が確認されれば、ビッグテックを再評価する契機になると考えられます。

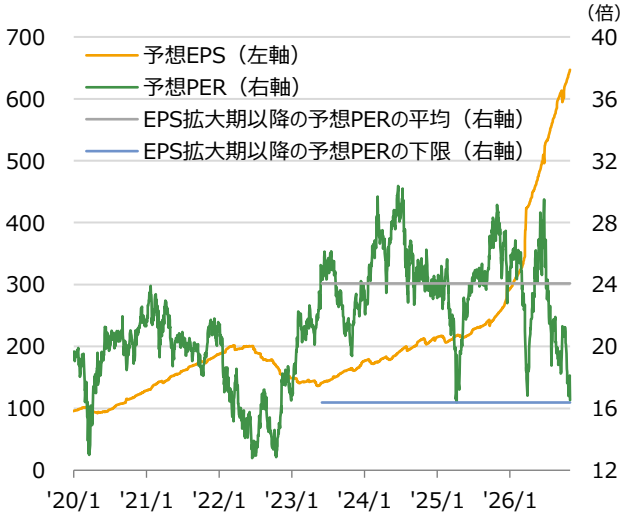
（執筆：調査部　高橋卓也）

図表1　ビッグテック4社の設備投資とFCF



※直近値は26年７-９月期。同10-12月期以降はブルームバーグ予想
※ビッグテック4社＝マイクロソフト、アルファベット、アマゾン、メタ
（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

図表2　SOXの12カ月先予想EPSと同PER



※直近値は26年10月30日。ブルームバーグ予想
（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。